

松尾

M A T S U O

大いちょうと
仙人の棚田の里



地区の概要

松尾地区は人口約 450 人で、村内では上椎葉地区に次いで 2 番目に人口の多い地区です。松尾小学校と松尾保育所があり、旧松尾中学校は「大いちょうふれあいセンター」として住民の交流の場になっています。諸塚村と隣接しており、国道 327 号線の改良により日向・宮崎方面へのアクセスが改善されています。地区のシンボルとして、展望台から眺める仙人の棚田および庄屋跡の大いちょうがあります。



地区の未来像

ささえ合いの郷、松尾



作成の過程

地区住民なら誰でも参加できるワークショップ「松尾みらい会議」を2回行いました。その後、役員会などの皆さんと打ち合わせを行い、地区住民による内容の校正を経て完成しました。

プロジェクト

01 松尾を配食のモデル地区に！ 運営体制の整備

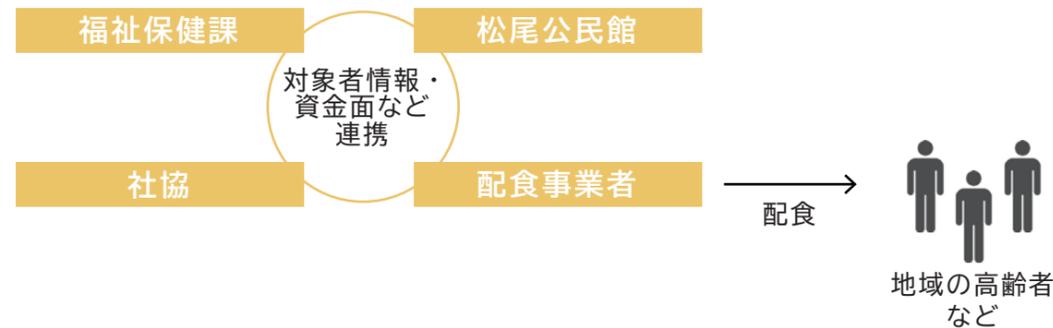
概要

2015 年の地区計画で高齢者向けの配食事業を検討し、2020 年から地域おこし協力隊を導入して松尾地区内での配食サービスの実施を始めた。地区独自の配食を600円で提供しているが、配食として高頻度で利用するには値段が高く、一方で事業者の経営面を考えると安価での提供も難しい。安定的に配食を提供できる体制づくりのため、次のことに取り組んでいきたい。
(1) 配送方法や価格低減の工夫
(2) 行政との連携による負担軽減

目的

行政が提供する配食サービスの対象者は審査によって決められており、審査では対象者として該当しないが実際は食事の用意ができず困っている地域住民がいる。高齢化により食事のサポートが必要な人はこれからますます増えていくため、地区として食の安定を図っていききたい。

実施体制



メモ

02 伝統芸能の継承プロジェクト

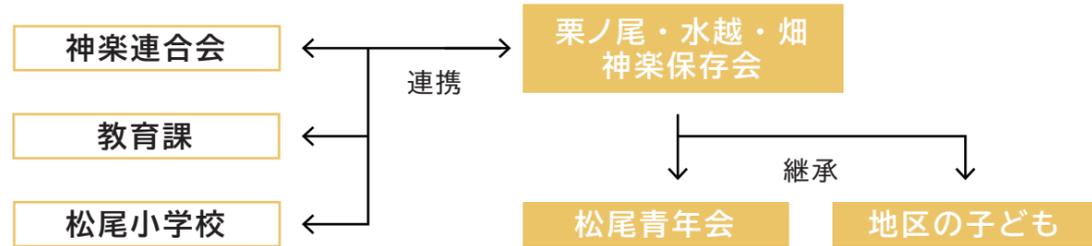
概要

前回の地区計画で神楽の継承について協議を行い、平成 29 年から松尾地区青年会が地区内3団体の神楽を継承し始めた。引き続き、神楽の継承のために次の取り組みを進めていきたい。
 1. 子ども神楽の立ち上げ…神楽の活動を活発にして、継承につなげるため。
 2. 神楽の体制づくり…保存会同士の連携などにより、安定的に神楽ができるようにしたい。

目的

栗ノ尾、水越、畑の3地域で神楽保存会があるが、コロナ禍により神楽が行われずますます存続が危ぶまれるため。

実施体制



03 手をつなごう！ みんな仲良しプロジェクト

概要

保護者以外でも小学校と関われる場づくりとして、松尾小学校の放課後子ども教室を活かした地域との交流を行う。(老人会のランドゴルフを一緒にする、など)

目的

子どもから保護者、じいちゃんばあちゃんまで交流を広げることで、「子どもは松尾で育てる」地域づくりをしていきたい。

実施体制



地域住民の声

松尾の公民館長を務めて 10 年になります。前回の総合計画策定時は、松尾中学校の閉校や跡地利用問題があり、住民アンケートを取るなどして計画を進めました。そうして完成した大イチョウふれあいセンターには、当時村内で初めてとなる集落支援員を迎え、主に高齢者の送迎など地区住民のために働いてもらっています。

また、高齢者向けの配食サービスの必要性にも前から着目し、なんとか手立てを模索して対策を進めてきました。その流れの中で今回の地区みらい会議を迎え、改めて住民で話し合う機会を持てたことはとても良かったです。その結果をプロジェクトへ落とし込み、さらに前進していきたいと考えています。

私の目標は、高齢になった人たちに「松尾に住んで良かった」と思ってもらえる地域づくりをすることです。それに向けて、私たちがどう動いていくかが難しいところでもあります。しかし、今行動を起こしていかなければ、あと数年後には困る人がさらに増えてくるはず。そうなるからでは遅いからこそ、今しっかりと皆で地区の将来を考え、行政や様々な組織とうまく関連を取りながらプロジェクトへ取り組んでいきたいと思っています。



館長の想い

椎葉 治敏 (ししば はるとし)



中竹 直人 (なかたけ なおと)

松尾地区には現在、栗ノ尾、水越、畑の3つの神楽保存会があります。私はそれらの代表者を務めながら、松尾神楽の継承に取り組んでいます。私自身、椎葉村に帰ってきた20歳頃から神楽を舞い始めました。元は父親が代表を務めていたためその後を引き継ぎ、実家にはそれにまつわる書き物なども残っています。継承していくのは大変なことです。祖父や父から代々受け継いできたものを自分も後世に残していかなければという思いも持っています。

ここ数年の取り組みでは、平成29年から3年間、大イチョウふれあいセンターで神楽祭りを行っていましたが、一時は途絶えていた集落の神楽を27年ぶりに復活させ、松尾青年会の若手の面々が各集落に数名ずつ出向き、神楽を習い始めました。そんな継承活動も、ここ2年間はコロナ禍で思うように実施できない状況にあり、歯がゆい思いです。

今回のプロジェクトでは、松尾地区の子ども神楽を立ち上げる話が出てきました。子ども達にもこの伝統芸能を教え伝えていくことはもちろんですが、子どもも一緒になって巻き込むことでさらに活気も出てきますし、お披露目の機会も増え、大人のモチベーションアップにもつながると期待しています。